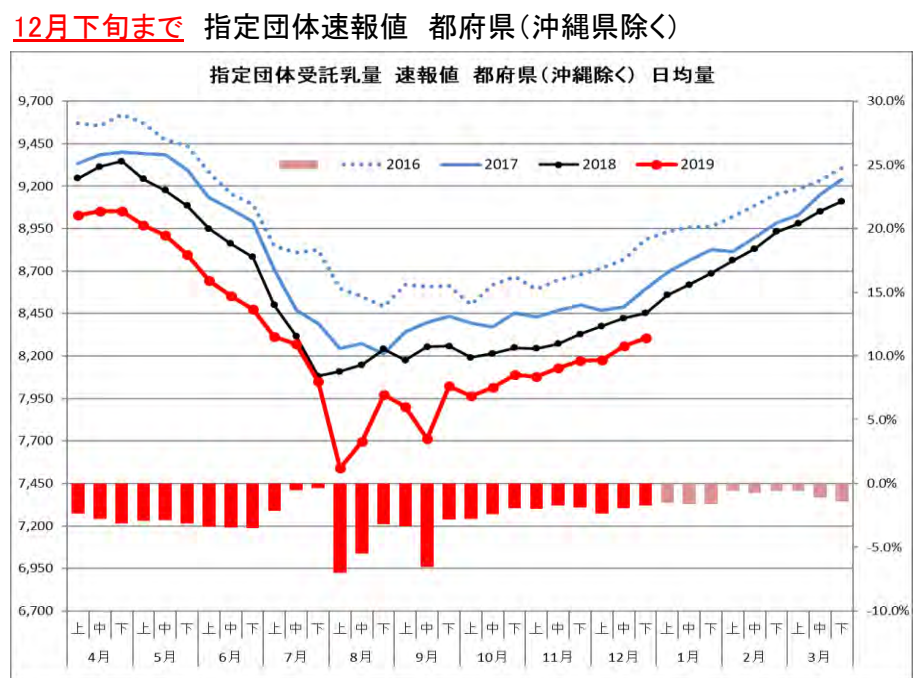
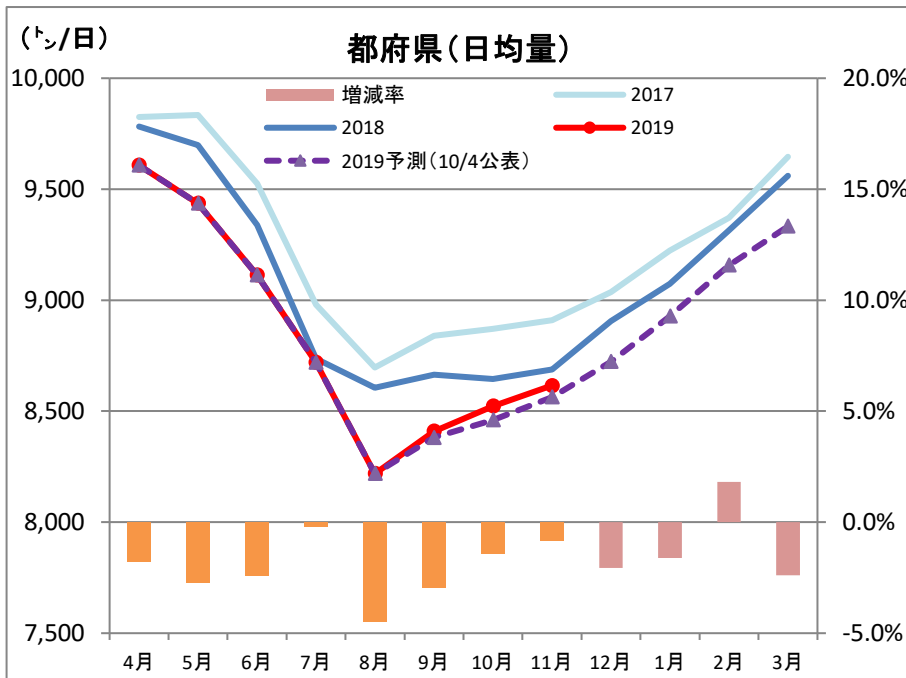
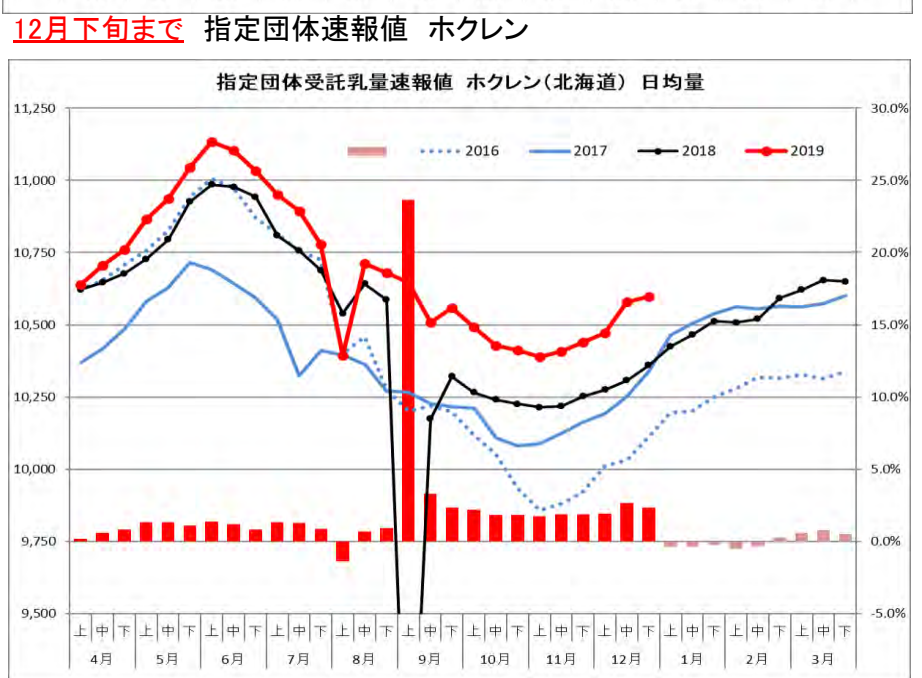
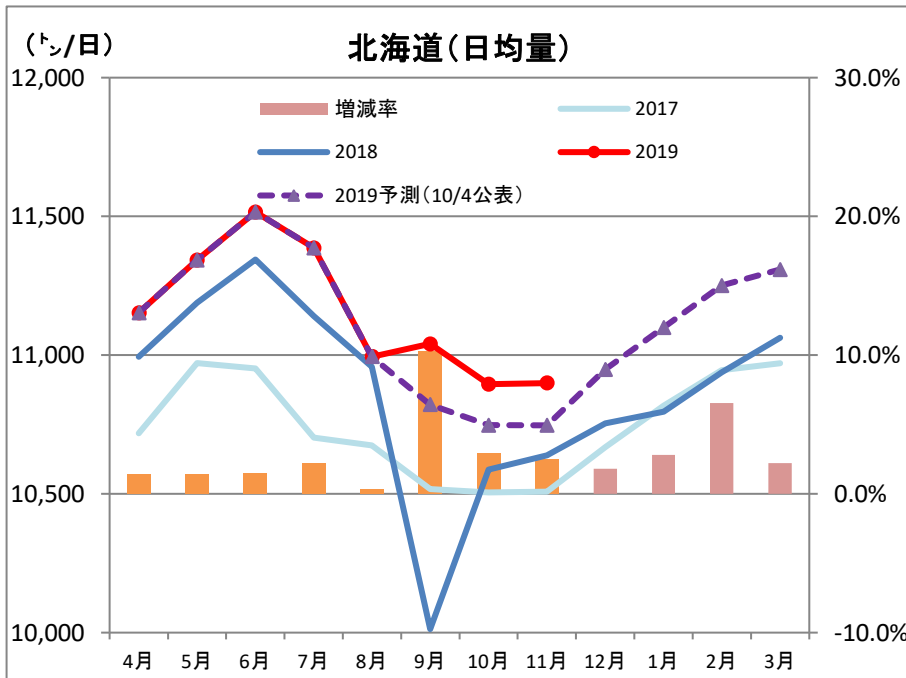
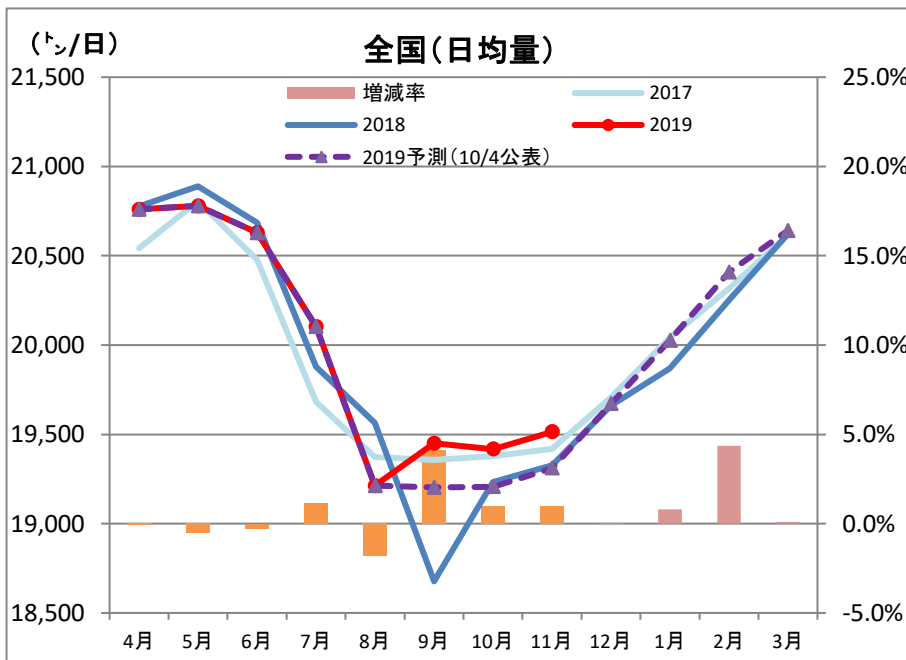


Jミルクが2019年10月4日に公表した直近の「需給見通し(※2019年8月迄実績)」の予測値と実績をグラフ化しています。毎月25日の「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も随時、配信していきます。 発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【生乳生産量】

- (1) 11月の生乳生産量は、全国585千トン(前年同月比101.0%)、北海道327千トン(同102.5%)、都府県258千トン(同99.2%)。
- (2) 北海道は、Jミルク10/4予測値(322千トン、同101.0%)を1.5ポイント上回った。前月に続き予測を上振れし、好調に推移している。
- (3) 一方都府県も予測値(257千トン、同98.6%)を上振れ。暑さや災害で落ち込んだが、下期以降生産量は回復している。
- (4) 12月の指定団体速報値によると、全国が同100.4%、北海道が同102.3%、都府県(沖縄除く)が同98.0%。



【牛乳等生産量】

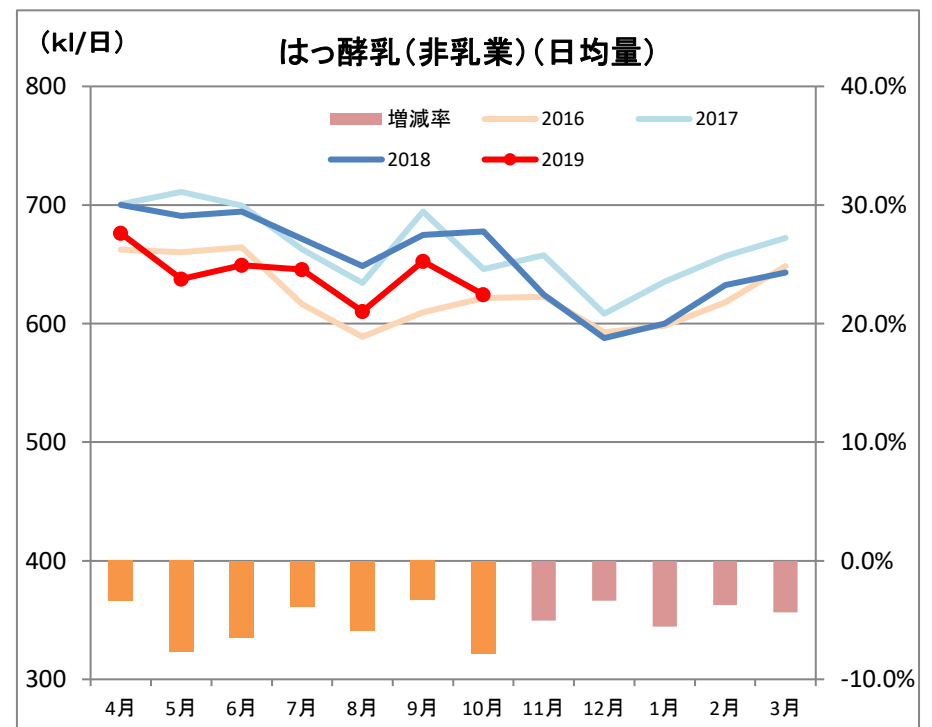
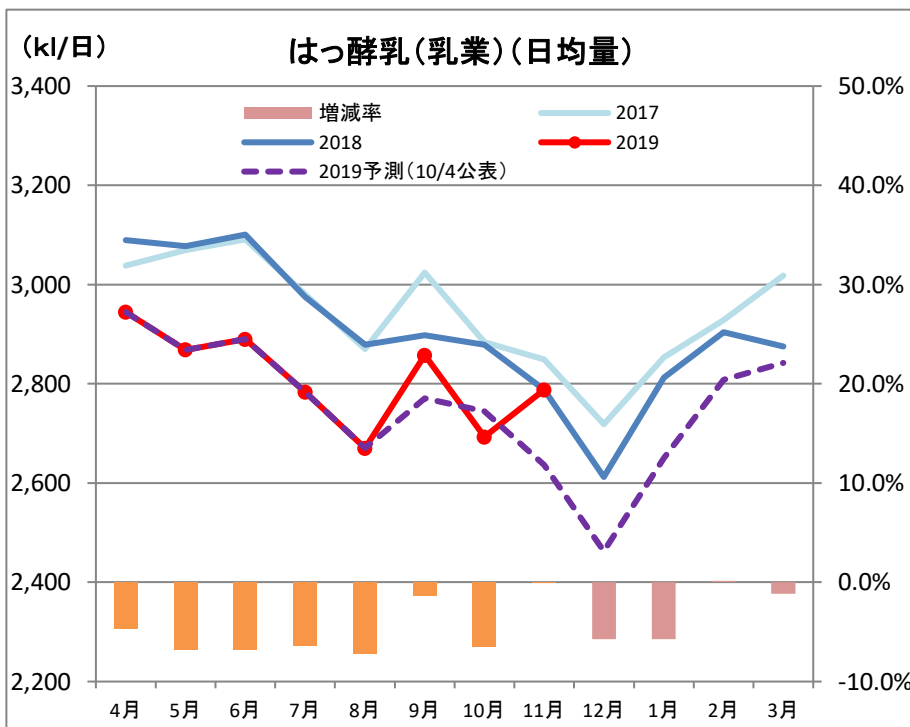
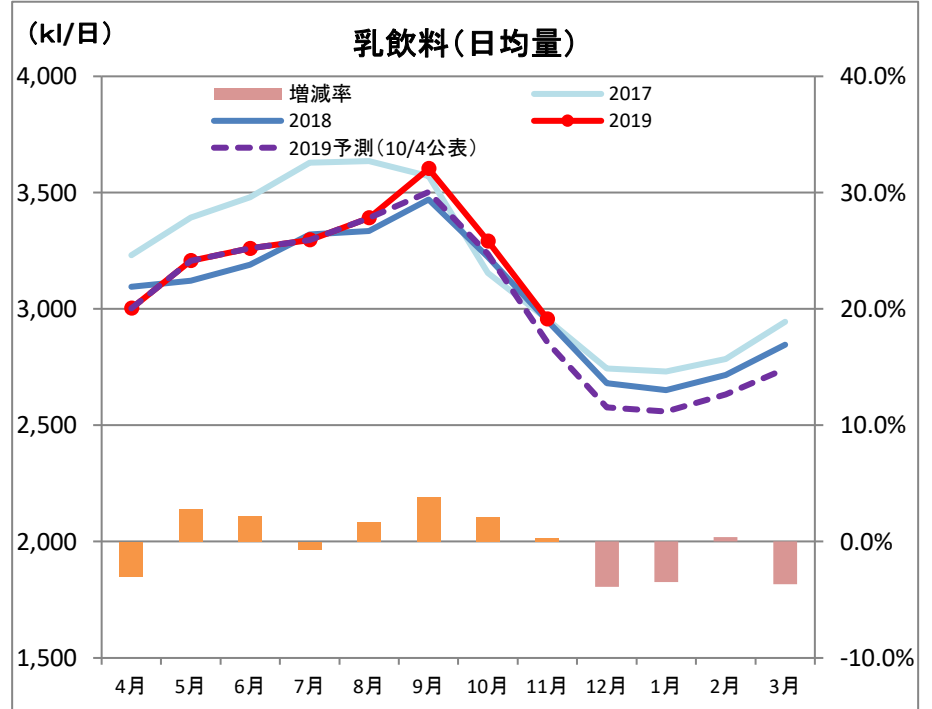
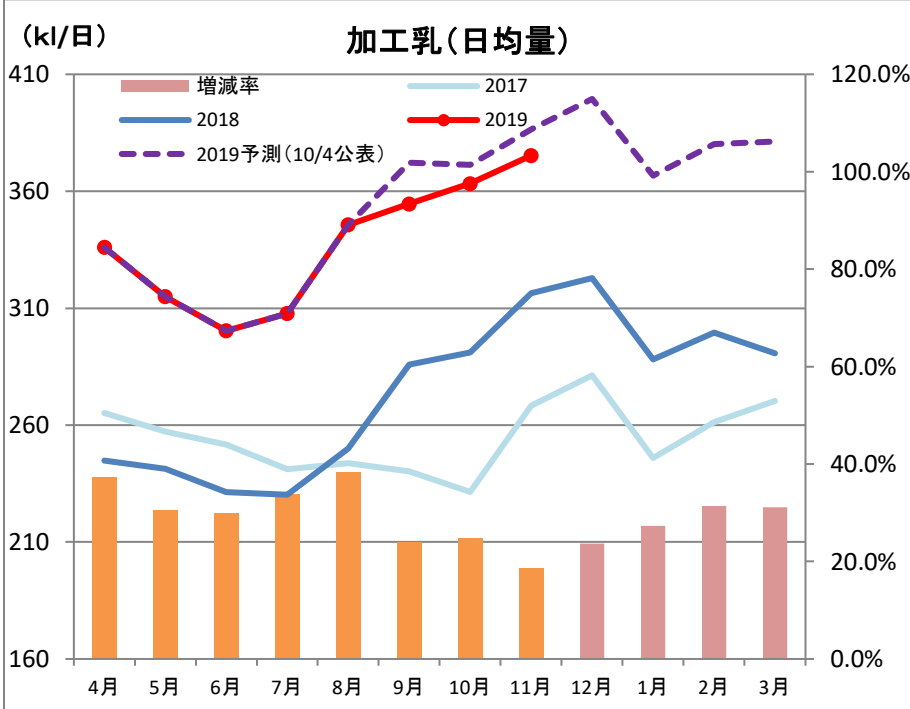
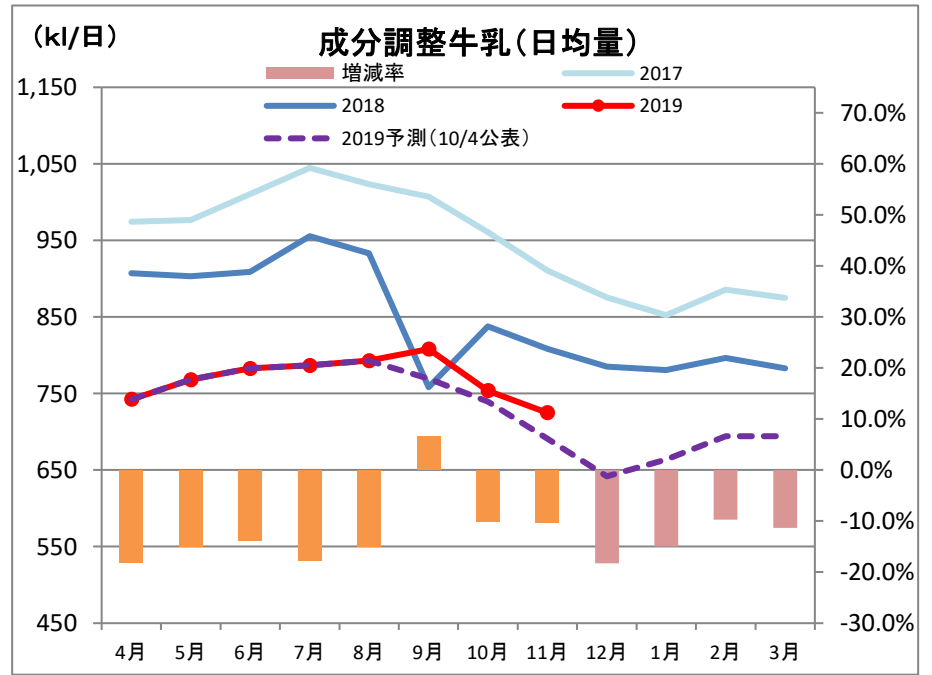
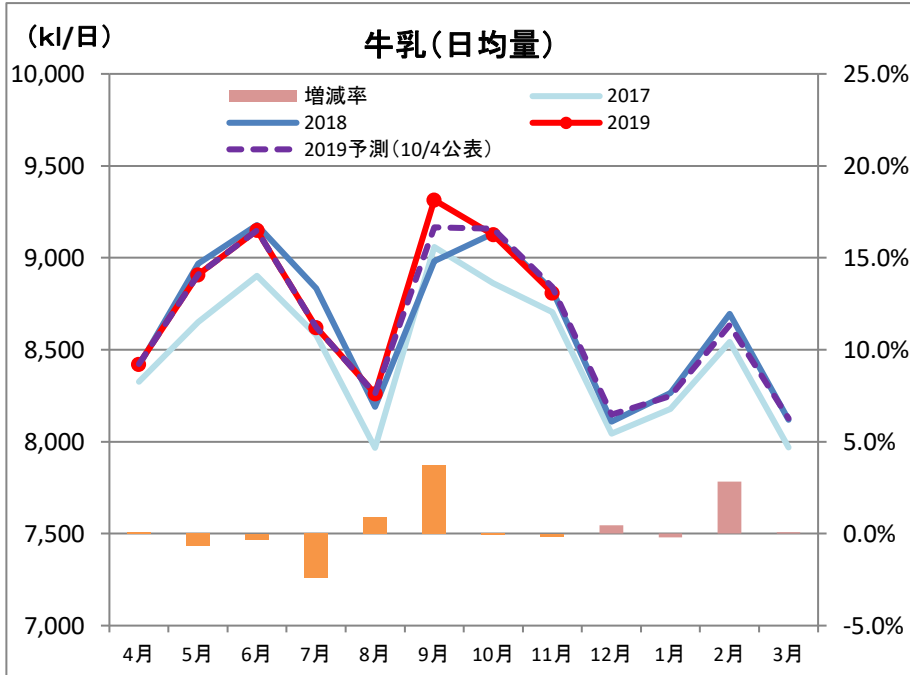
(1) 11月の牛乳等生産量は、牛乳264千kl(前年同月比99.8%)、成分調整牛乳22千kl(同89.7%)、加工乳11千kl(同118.6%)、乳飲料89千kl(同100.3%)となり、牛乳類で386千kl(同99.8%)と4ヶ月振りに前年割れとなった。

(2) 「牛乳」のうち、「業務用以外」は同100.6%と堅調である一方、「業務用」は同97.9%と2ヶ月連続の前年割れ。

(3) 加工乳・成分調整牛乳は目立った動きはないが、「乳飲料」は4ヶ月連続で前年を上回り推移している。

(4) 一方で、はっ酵乳(乳業)は84千kl(同100.0%)と15ヶ月振りに前年並みとなり、今後の動向に着目したい。一方、10月の非乳業実績については同92.2%と12ヶ月連続で前年割れとなり、ダウントレンドが続く。はっ酵乳消費の減少は、その原料となる脱脂粉乳・脱脂濃縮乳需要に影響を及ぼしている。

※はっ酵乳(非乳業)資料:(一社)食品需給研究センター「食品製造業の生産動向」



【牛乳類の販売速報(推定値): インテージSRI】

(1) 2019年11月よりデータ対象店舗にドラッグストア業態を追加した。あわせて2007年度まで遡及し更新したため、数値がこれまでと異なることに留意。

(2) 11月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比100.2%、成分調整牛乳:同82.0%、加工乳:同180.9%、乳飲料:同102.4%。

牛乳の伸び率がやや鈍化した影響もあり、牛乳類では同99.7%と3ヶ月振りに前年割れとなった。

・販売単価は、牛乳:189.7円、成分調整牛乳:172.9円、加工乳:182.6円、乳飲料:150.3円。

全ての品目が前月より0.5~1.0円程度安くなった。

(3) 12月の動向

・販売個数(週次3週合計)は、牛乳:100.6%、成分調整牛乳:81.6%、加工乳:175.6%、乳飲料:101.7%。

・※出典 (株)インテージSRI週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。これらのデータ転用はご遠慮下さい。

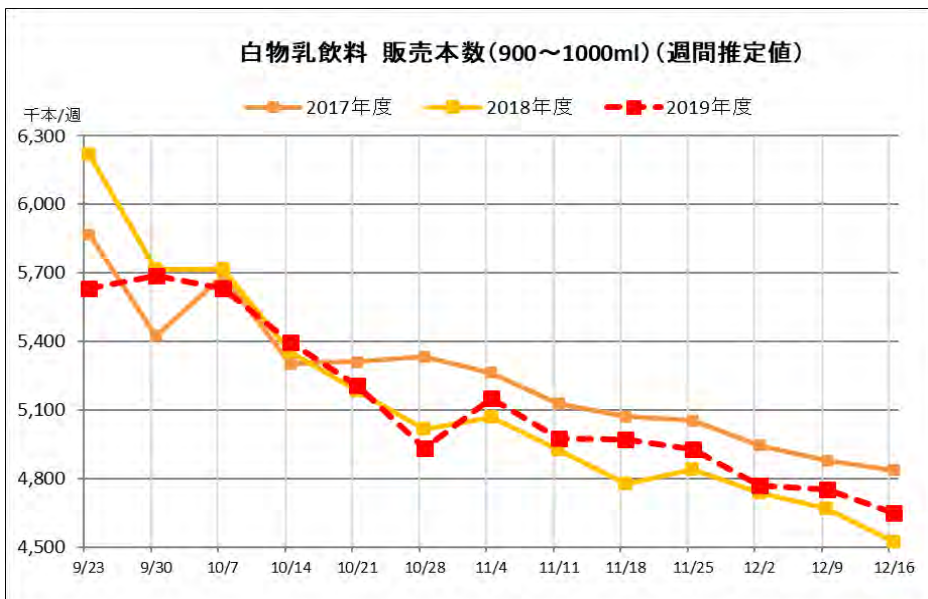
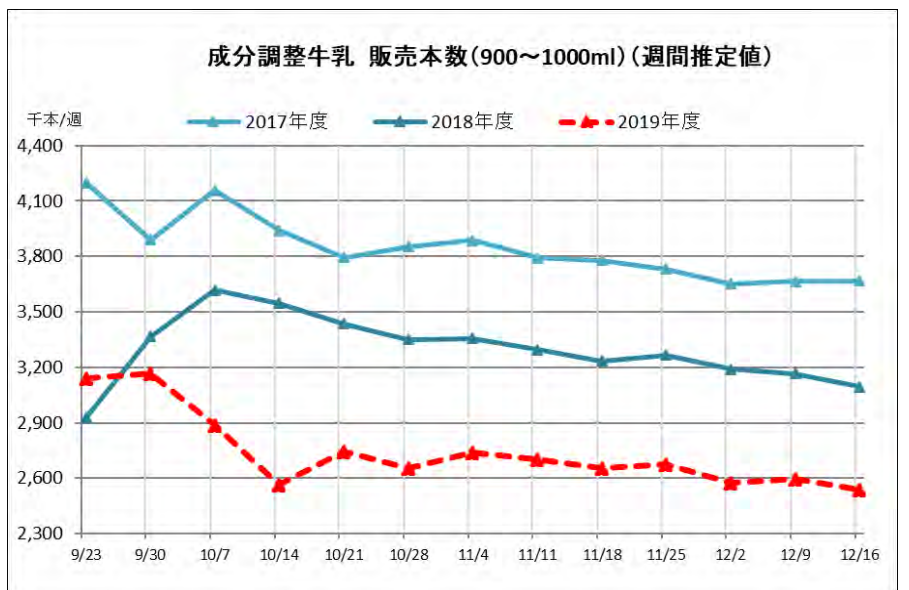
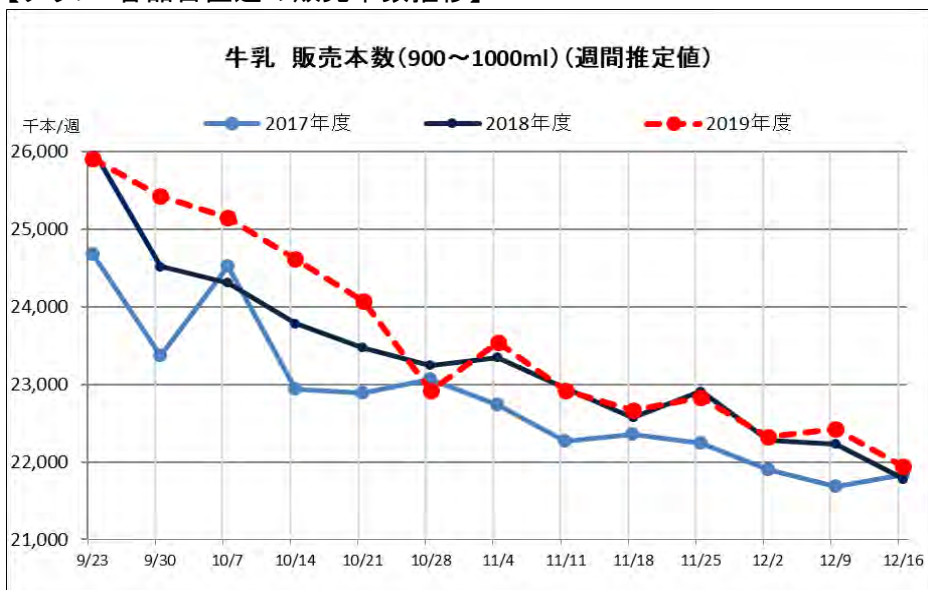
【表① 牛乳類の販売動向】

品目	区分	2019/4-	2019/5-	2019/6-	2019/7-	2019/8-	2019/9-	2019/10-	2019/11-
トータル	販売個数	134,835	146,125	146,089	150,712	157,017	153,596	148,298	134,058
	販売個数前年比	95.8	96.1	96.8	91.6	96.8	100.1	100.8	99.7
	販売単価	181.1	182.0	182.1	182.5	183.2	182.6	182.4	181.8
牛乳	販売個数	98,671	106,849	106,658	109,892	115,243	111,701	108,225	97,871
	販売個数前年比	98.2	97.4	97.8	92.4	98.0	100.5	102.6	100.2
	販売単価	188.6	189.5	189.8	190.3	190.9	190.5	190.2	189.7
成分調整牛乳	販売個数	12,089	12,781	12,615	13,213	13,581	13,640	12,364	11,490
	販売個数前年比	73.5	77.0	78.1	74.8	78.2	105.5	80.7	82.0
	販売単価	171.1	172.8	173.1	173.5	173.9	173.5	173.8	172.9
加工乳	販売個数	3,303	3,831	3,805	3,959	3,942	3,972	3,871	3,321
	販売個数前年比	183.7	180.4	180.3	173.9	178.2	160.1	178.1	180.9
	販売単価	184.5	187.9	186.2	186.6	188.2	184.7	183.3	182.6
乳飲料	販売個数	20,772	22,664	23,011	23,648	24,251	24,283	23,838	21,376
	販売個数前年比	94.2	96.1	98.0	92.2	96.7	90.2	99.0	102.4
	販売単価	150.3	150.8	150.7	150.6	151.1	151.0	151.4	150.3

【表② 牛乳乳製品統計との比較(前年同月比)】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
SRI 牛乳類	前年比	95.8	96.1	96.8	91.6	96.8	100.1	100.8	99.7
統計 牛乳類	前年比	98.7	99.7	99.9	97.6	100.7	104.3	100.4	99.8
差(SRI-統計)		-2.9	-3.6	-3.1	-6.0	-3.9	-4.2	0.4	-0.1
SRI 牛乳	前年比	98.2	97.4	97.8	92.4	98.0	100.5	102.6	100.2
統計 牛乳	前年比	100.2	100.3	99.6	97.0	100.4	102.5	101.3	100.6
差(SRI-統計)		-2.0	-2.9	-1.8	-4.6	-2.4	-2.0	1.3	-0.4
SRI 成分調整牛乳	前年比	73.5	77.0	78.1	74.8	78.2	105.5	80.7	82.0
統計 成分調整牛乳	前年比	81.9	85.1	86.2	82.3	85.0	106.6	89.9	89.7
差(SRI-統計)		-8.4	-8.1	-8.1	-7.5	-6.8	-1.1	-9.2	-7.7
SRI 加工乳	前年比	183.7	180.4	180.3	173.9	178.2	160.1	178.1	180.9
統計 加工乳	前年比	137.2	130.5	129.8	133.7	138.2	124.0	124.8	118.6
差(SRI-統計)		46.5	49.9	50.5	40.2	40.0	36.1	53.3	62.3
SRI 乳飲料	前年比	94.2	96.1	98.0	92.2	96.7	90.2	99.0	102.4
統計 乳飲料	前年比	97.0	102.8	102.2	99.3	101.7	103.8	102.1	100.3
差(SRI-統計)		-2.8	-6.7	-4.2	-7.1	-5.0	-13.6	-3.1	2.1

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】

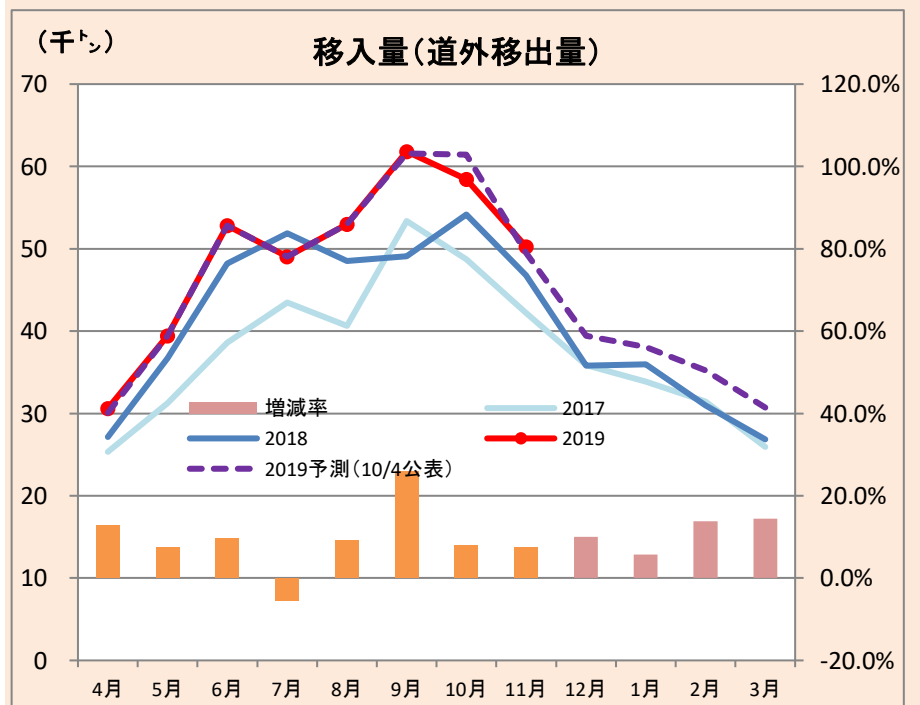
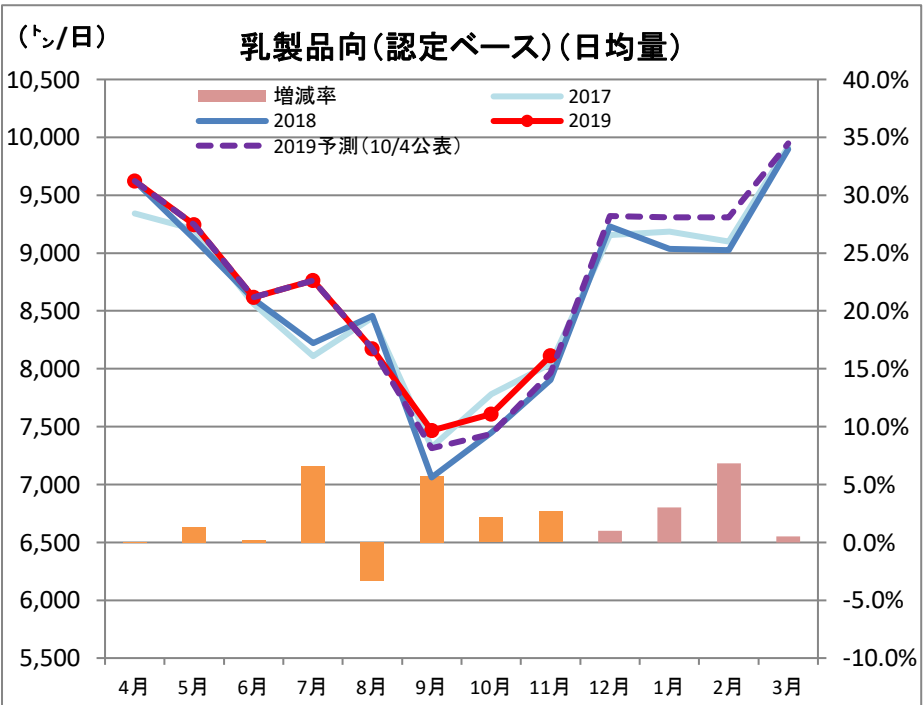
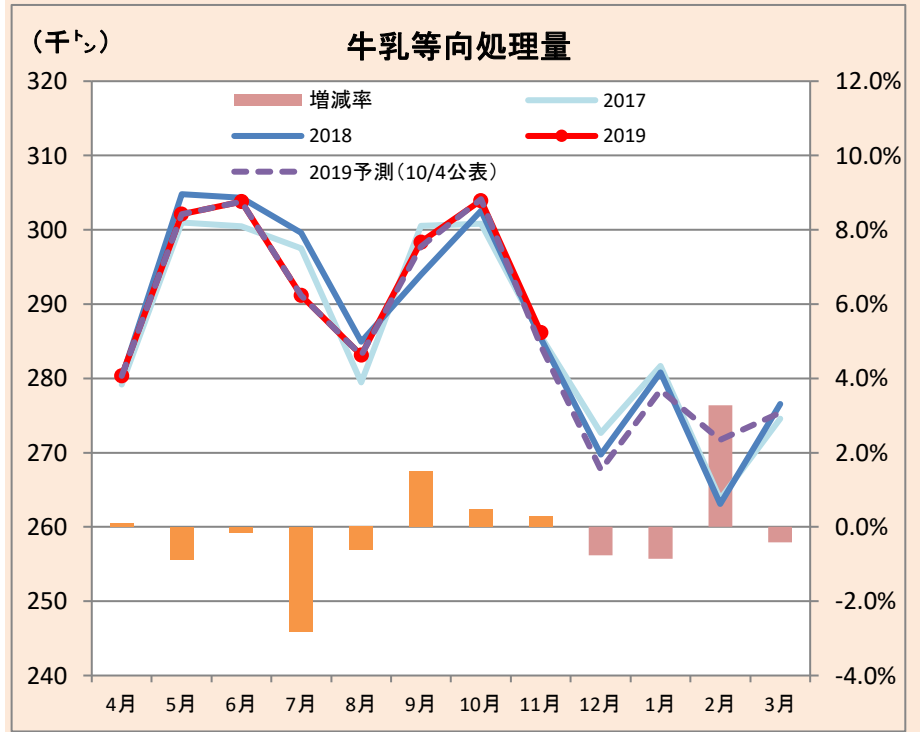
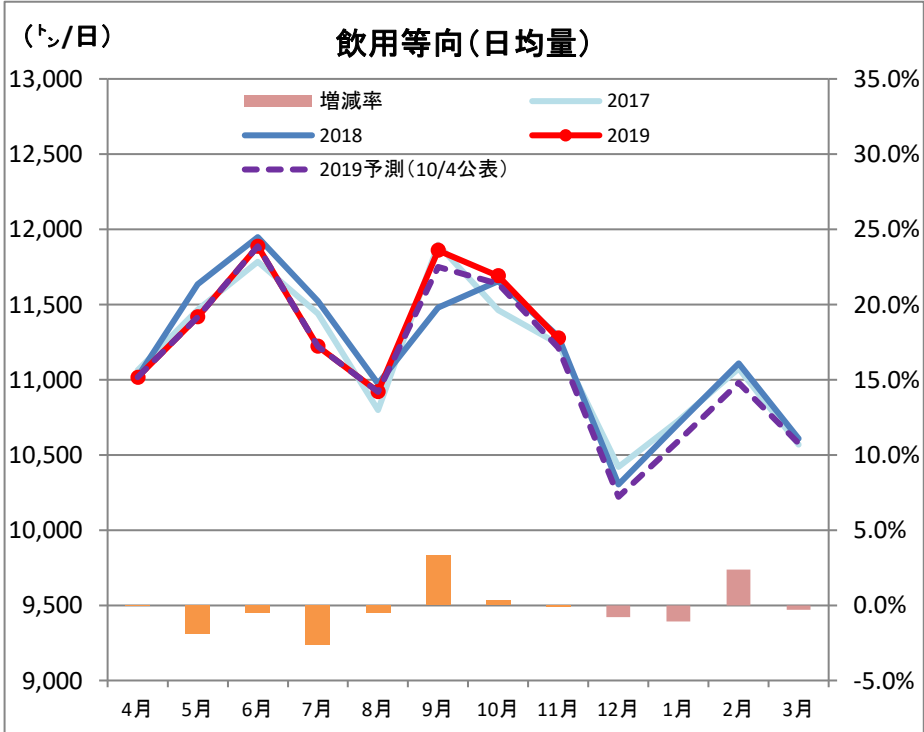
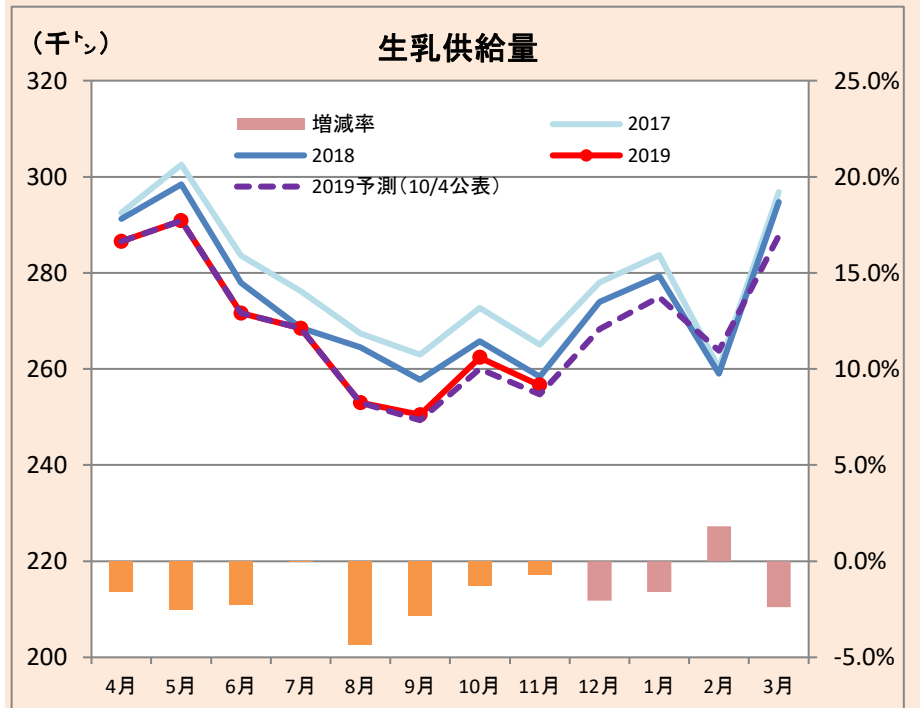
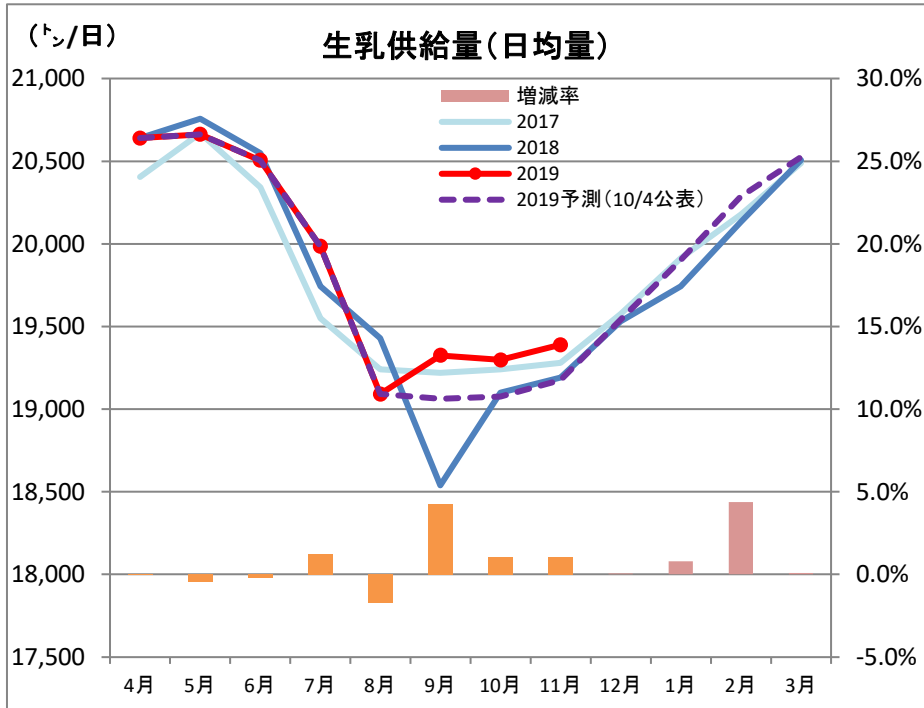


【用途別処理量】

(1) 11月の生乳供給量は582千ト(前年同月比101.0%)、飲用等向338千ト(同99.9%)、乳製品向(認定ベース)243千ト(同102.7%)。
 (2) 乳製品向は、9月を除き各月前年を上回る処理量で、脱パタ向も十分な量が確保され、需要期の混乱は生じなかった。
 (3) 北海道の生産が好調で、今後全国の供給量は前年を超えて推移することが予測され、乳製品向について、前年+2~3ポイント前後で推移する見通し。

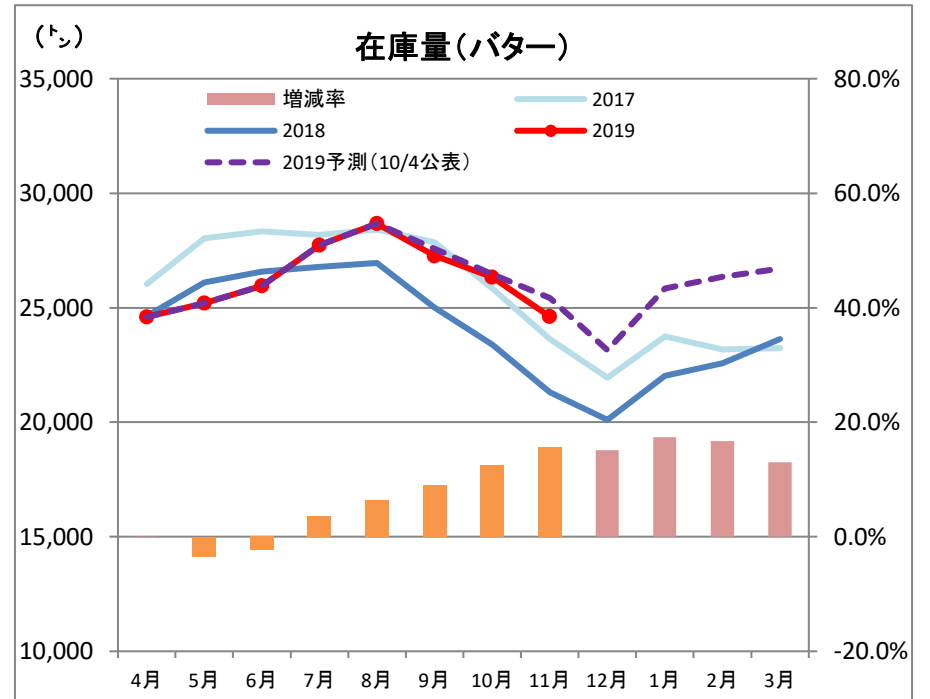
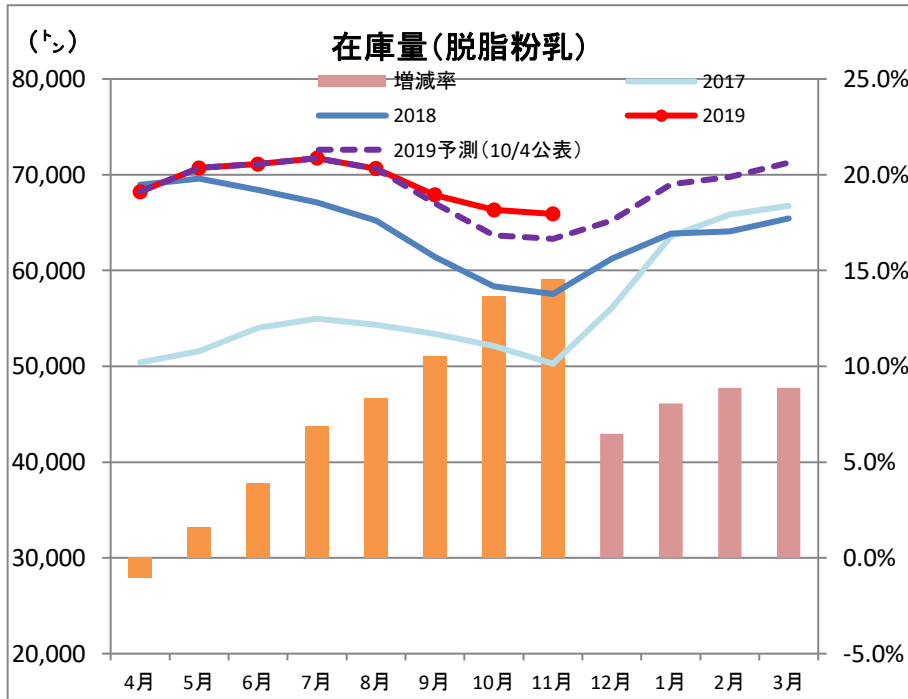
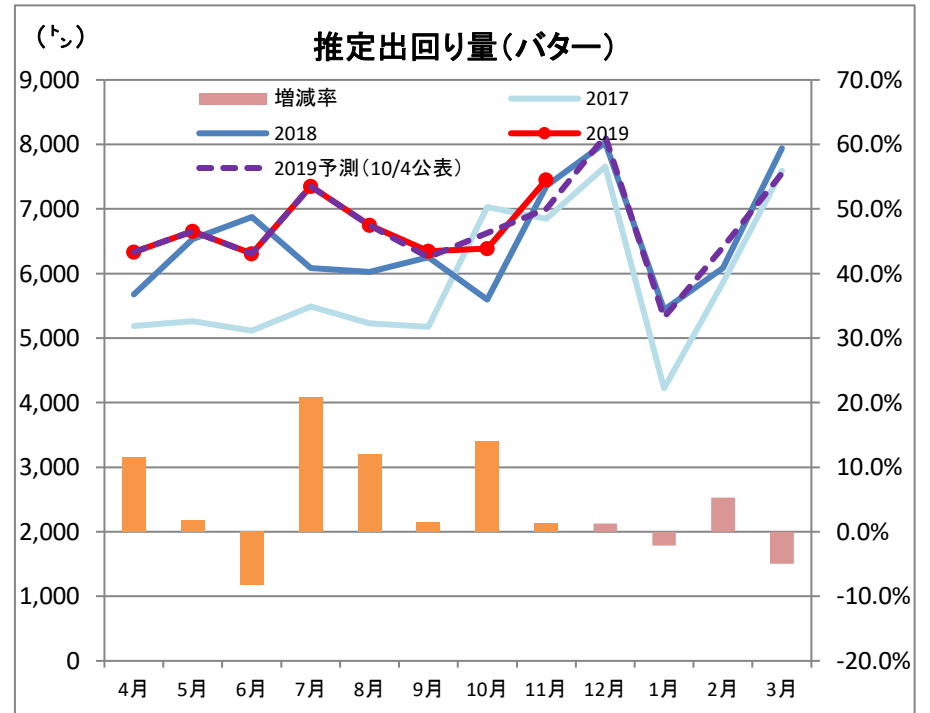
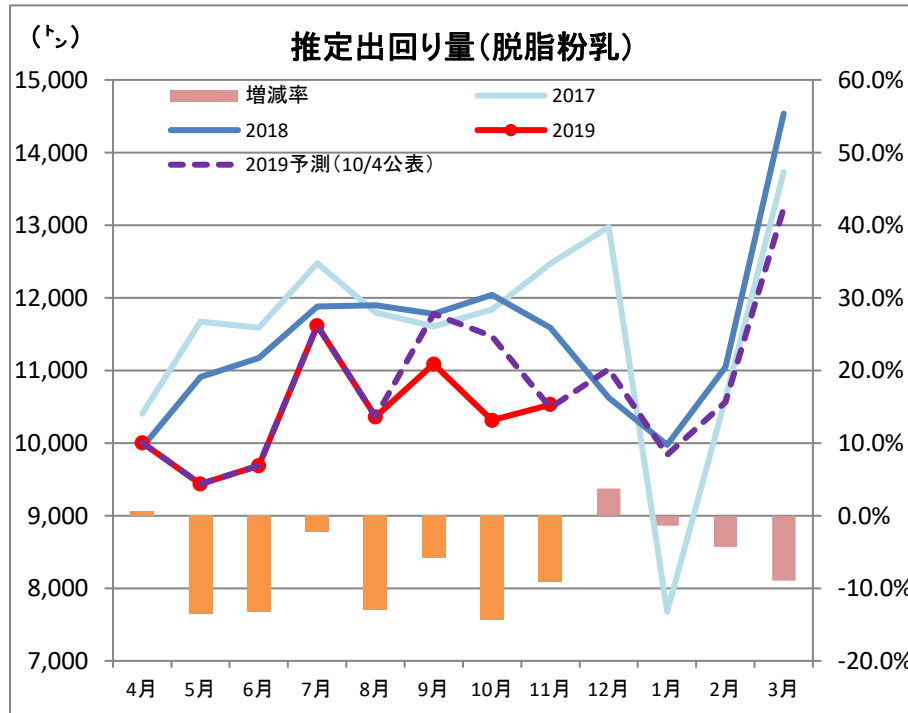
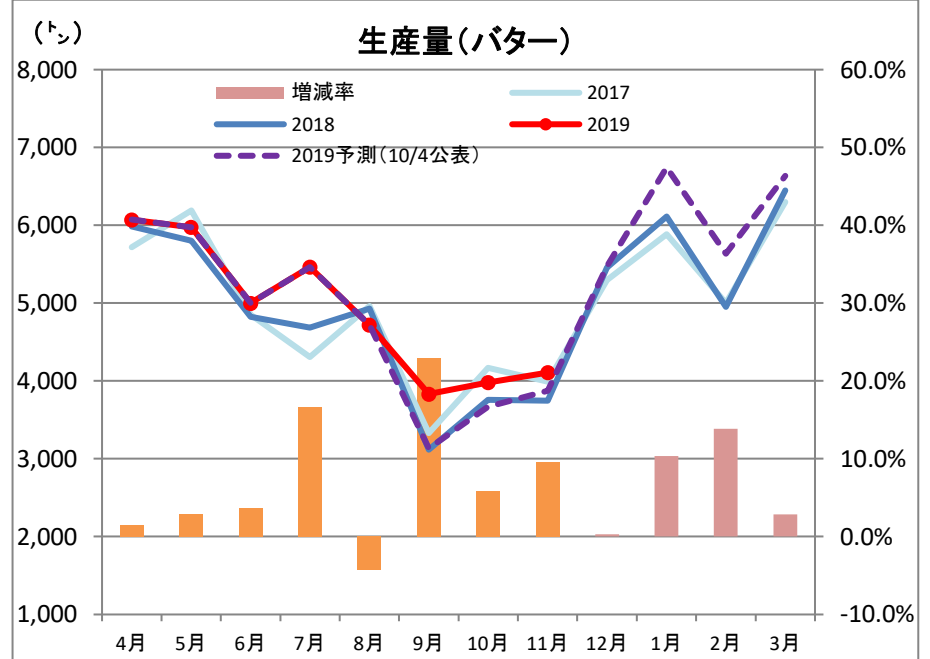
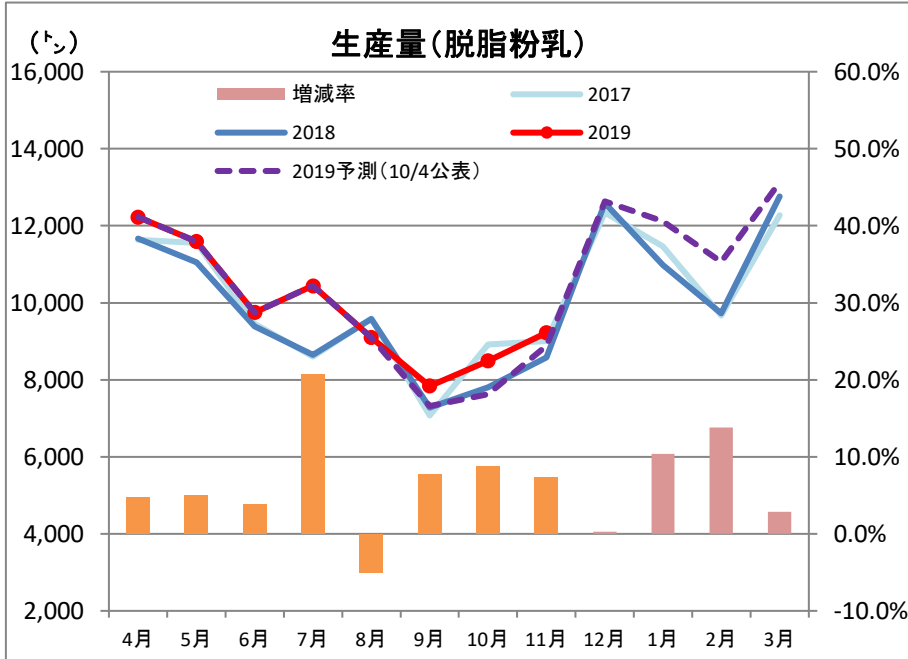
【都府県の生乳需給】 ※増減率は、日均量で算出。

(1) 11月の生乳供給量257千ト(前年同月比99.3%)、牛乳等向286千ト(同100.3%)、北海道からの移入量について、50千ト(同107.4%)。
 (2) 北海道からの移入量は11月としては初めて50千トを超え、過去最高値。
 (3) 12月、1月の引き合いも依然強い状況が続く。なお、年末年始の需給について大きな混乱はなかった。



【脱脂粉乳・バター需給】 ※増減率は、日均量で算出。

- (1) 脱脂粉乳は、11月の生産量は9.2千ト(前年同月比107.4%)、推定出回り量は10.5千ト(同90.9%)、その結果、在庫量は65.9千ト(同114.5%)。推定出回り量(≒需要量)は大きく前年を割り込み、7ヶ月連続で前年割れ。
- (2) バターは、11月の生産量は4.1千ト(同109.6%)、推定出回り量は7.5千ト(同101.3%)、その結果、在庫量は24.6千ト(同115.6%)。推定出回り量(≒需要量)は堅調に推移。
- (3) 直近の輸入入札状況について、12/12バターは全量の1千トが落札され、今年度枠としては、1/16(入札:1千ト)を残すところとなり、全量落札となる見通し。
- (4) 一方脱脂粉乳は、2019年度輸入枠:14千ト(10/4、6千ト削減)に対し、これまで6.5千トが落札。今後の入札スケジュールは未定。
- (5) 例年のスケジュールでは年明け1月下旬頃には翌年度の輸入数量枠が公表されるため、需要動向を踏まえた設定が望まれる。



【乳用種からの出生頭数動向 確報値】

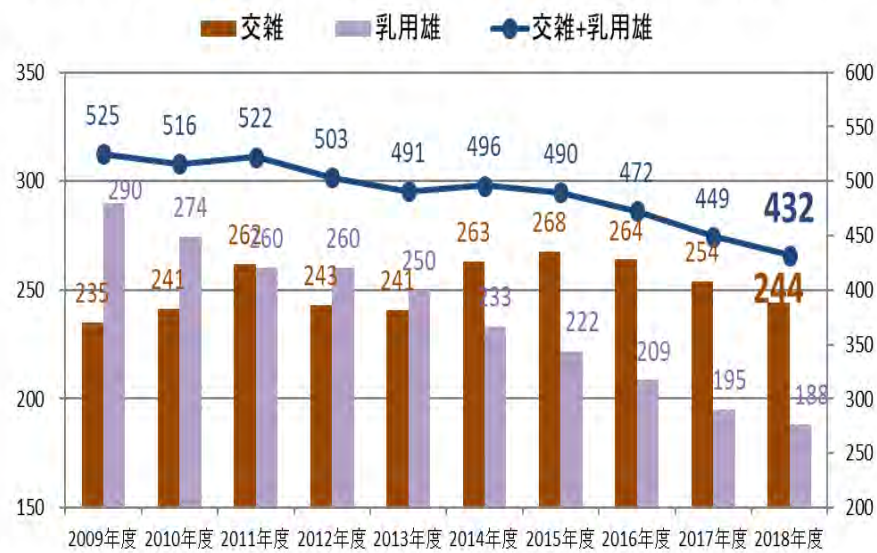
(1) 10/30に公表された2018年度の乳用種からの出生頭数・**確報値**によると、ホル雄188千頭(前年比96.5%)、交雑種244千頭(同96.0%)、黒毛和種526千頭(同101.4%)。ホル雄は9年連続、交雑種は3年連続の減少。一方黒毛和種は4年連続の増加となった。

(2) ここ10年間でみると、ホル雄+乳用交雑は93千頭減少。このことは母体となりうる乳用種の2歳以上頭数が減少したことによる。黒毛和種について、2010年の宮崎県口蹄疫、2011年の安愚楽牧場破綻の影響が大きく、10年スパンでみると44千頭減少しているが、近年は繁殖雌牛の増頭により出生頭数は増加に転じている。

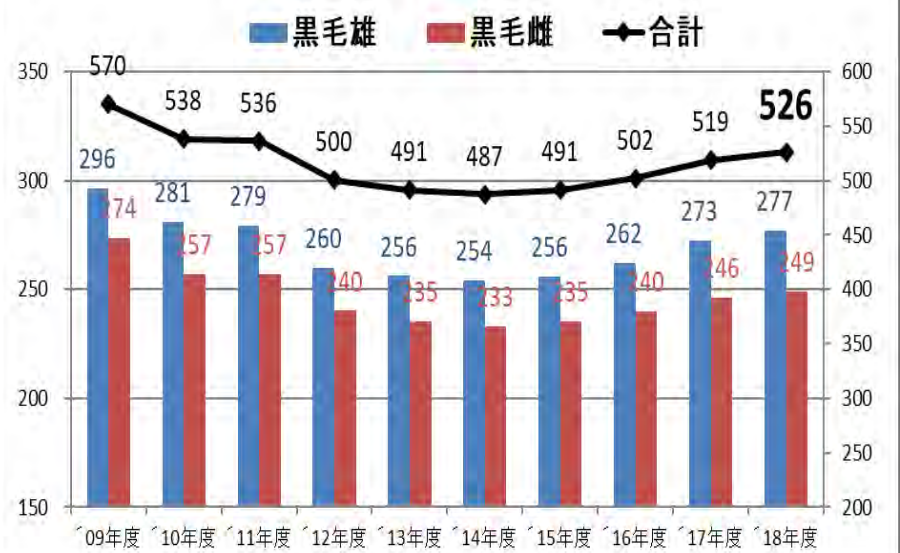
(3) 確報値と速報値の違いについて。翌々月までに集計される速報値に対し、年間1回公表される**確報値の方が、頭数が多くなる。**

※家畜改良センターの確報値。

交雑子牛(雄雌)と乳用子牛(雄)の出生頭数



黒毛和種(雄・雌)出生頭数



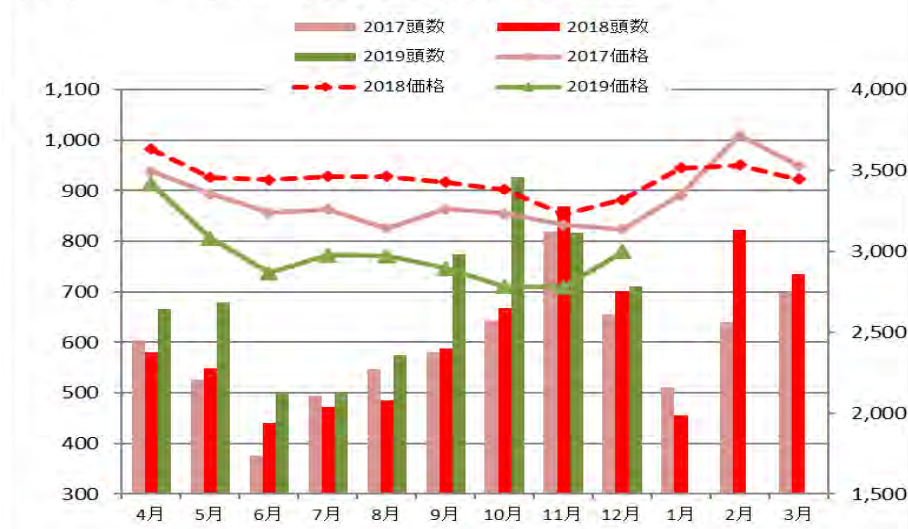
【家畜販売価格動向】

(1) 12月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は779千円(前年同期比88.2%)、育成牛価格は403千円(同92.2%)、和牛素牛(去勢)価格は794千円(95.0%)、F1素牛(去勢)価格は521千円(同96.3%)、F1初生(雄)価格は248千円(85.9%)。

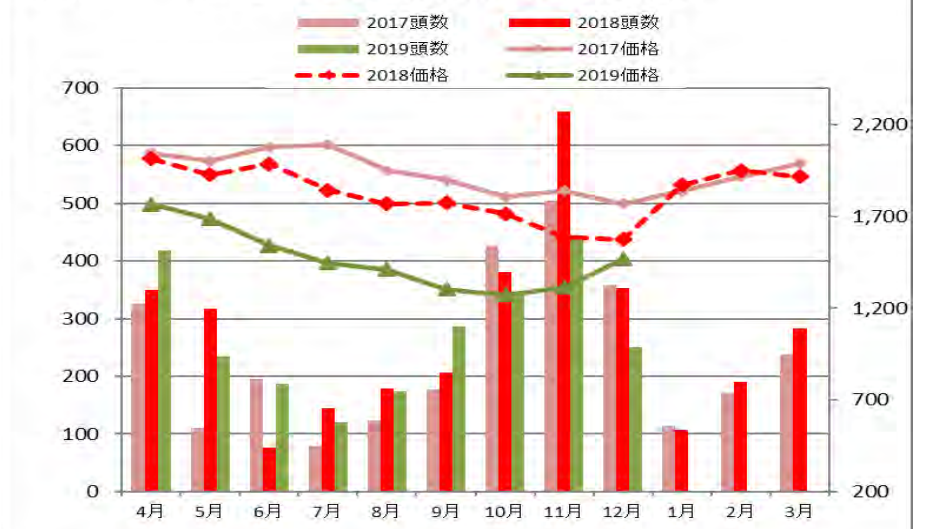
(2) 価格について、ここまで下落傾向にあった初妊牛、育成牛は春分娩中心となったことから前月より上昇。和牛素牛はやや軟調、F1素牛はやや上昇、F1初生とは持ち合い。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値 (<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

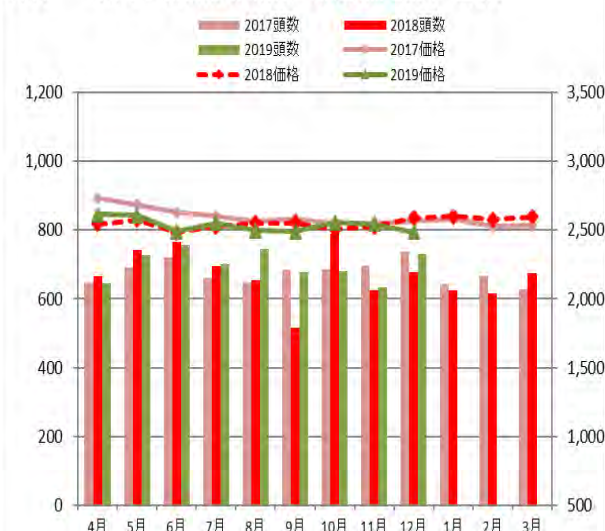
ホクレン家畜市場 成績一覧表(初妊牛)



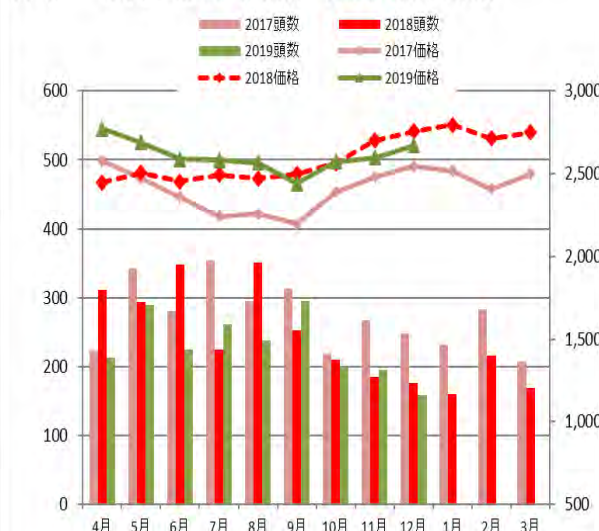
ホクレン家畜市場 成績一覧表(育成牛)



ホクレン家畜市場 成績一覧表(黒毛素牛 去勢)



ホクレン家畜市場 成績一覧表(F1素牛 去勢)



ホクレン家畜市場 成績一覧表(初生とく F1雄)

